



慶應義塾大学ビジネス・スクール

株式会社マキタ (C) —社長交代というプロセス—

5

今、楨田 實（まきた みのる）氏は株式会社マキタの会長として業界活動を担当している。昔からある業界活動は、楨田氏が社長の時も父親（昇氏）の会長がやっていた。

10

2016年、楨田氏は次男 裕（ゆう）氏に社長の座を譲った。父親から会社を継ぎ、会社を変えて、成長させてきた。造船不況でリストラも経験した。最近、これまでを振り返って、今ある自分が、社長を継いた時に自分が目指していた姿だったのかもしれないと思えるようになってきた。

15

次男裕氏がマキタに入社したのは、2013年、裕氏が28歳の時だった。裕氏は神奈川県の私立K大学を卒業後、すぐに同大学のビジネススクールに進学し、その後M商社の船舶部門を3年経験していた。楨田氏は、久しぶりに香川に戻った裕氏を見て、その成長ぶりから早い段階で社長を代わつた方がいいと感じていた。M商社で厳しく鍛えられている様子がすぐに分かったからである。

「社長になるのに年齢は関係ないと思っていました。次男が29歳の時に『社長になるなら代わるし、ならないなら2年後だ』と言いました。結果として、もう一期（2年間）、社長を続けることにしましたが、その間、次男と一緒に会社のことを見て、2年後に社長を交代することにしました。役員会では『2年後に社長を交代するから頼む』と宣言しました。」

20

裕氏に社長を交代するまでの2年間、「一緒に会社を見る」と言っても、父親の楨田氏はほとんどのことに出さなかった。裕氏が相談に来ても、「自分で考えろ」「自分で判断しろ」と言うばかりだった。

25

このケースは株式会社マキタ社長楨田裕氏と会長 楨田實氏からの全面的な協力を得て作成した。謝意を表す。ケース作成者は高木晴夫、鶴ヶ谷理子、吉澤康代、反田和成である。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクールまで（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。ケースの購入は <http://www.bookpark.ne.jp/kbs/> から。

30

Copyright © 高木晴夫、鶴ヶ谷理子、吉澤康代、反田和成（2017年12月作成）